

- 1 題材名 オリジナルカップスをつくろう (4時間)
教材名 表現(音楽づくり)「オリジナルカップスづくり」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A表現(3)音楽づくり ア(ア)即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。
(イ)音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
イ(イ)音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
ウ(イ)音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

- [共通事項] (1)ア 拍、音色、強弱、リズム、音の重なり、反復、変化、音楽の縦と横の関係
・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音楽の縦と横の関係

(1) 題材観

本題材では、リズムパターンのつなげ方・重ね方が生み出すよさや面白さを生かし、全体の構成を工夫してまとまりのある音楽をつくる力を身に付けさせることをねらいとしている。

カップという身近な素材から音を見つめる機会を与えることで、児童が営む社会の中には、様々な音や音楽が存在していることや、それらを生かすことで音楽の楽しみがさらに広がることに気付かせたい。学習指導要領の目標では「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」を育成することが求められている。身近な素材を扱うことで、より音や音楽への興味・関心を高めることができるだろう。また、本題材ではつなげ方・重ね方を工夫して、リズムパターンをどのようにまとまりのある音楽に構成するか考えさせる。児童が様々なつなげ方・重ね方を試行錯誤しながら、自分たちにとって価値のある音楽をつくりだそうとすることが、音楽をつくったり表現したりする楽しさを味わうことにつながっていくと考える。

(2) 指導観

本題材では、グループでリズムアンサンブルをつくらせる。今回のリズムアンサンブルづくりでは、教具としてカップを扱う。カップを使った演奏(以下カップス)は、簡単に音を出すことができるため技能に不安がある児童も取り組みやすい。また、カップ一つで様々な音色やリズムをつくることのできるため楽しく取り組ませることができる点が魅力である。カップスは、音色やリズム、強弱、パフォーマンスと様々な要素を工夫しながら楽しく活動できる一方で、児童が何を学んでいるか意識しづらくなってしまふ恐れがある。そこで、今回はリズムパターンのつなげ方・重ね方を意識できるような学習展開を考えていく。

カップを使ったリズムアンサンブルづくり(以下オリジナルカップスづくり)では、互いに意見を交換しながら音を出して試すといった活動の往還がしやすいように基本的に4人グループで活動させる。今回は「1分以内」「基本パターン(A・B)を使ってつくる」「始め・中・終わりの構成でつくる」という条件をもとに音楽づくりをさせる。「1分以内」と時間制限をつくることで、短い場合は繰り返しを入れたり、長い場合はどこを短縮するか吟味したりすることができ、音楽の仕組みや全体の構成を意識させる手立てになると考えた。「基本パターン(A・B)を使ってつくる」ことにより、技能や経験の差に関係なく、誰もがオリジナルカップスづくりに取り組みやすくすることができるだろう。また、少ないリズムパターンでオリジナルカップスをつくることで、今回の学習のねらいであるリズムパターンのつなげ方・重ね方に意識を向けさせることができると考えた。他の音の出し方やリズムパターンを使いたい児童が学習を広げ・深める余地を残すため、第2時以降で、自分たちでつくったリズムパターンも入れてもよいという条件を付け加える。その際、つなげ方・重ね方に意識が向くように、リズムパターンの数を絞ってつくるように声をかける。「始め・中・終わりの構成でつくる」という条件は、見通しをもって安心して活動したり、つなげ方・重ね方を変化させるなど、音楽の仕組みを意識してオリジナルカップスをつくったりすることにつながると考えた。

3 題材の目標

- リズムパターンのつなげ方・重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、様々なつなげ方・重ね方を用いてオリジナルカップスをつくる技能を身に付ける。 (知識及び技能)
- リズムパターンのつなげ方・重ね方の面白さを生かし、全体の構成を工夫して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 (思考力、判断力、表現力等)
- 友達と協働しながら、カップでリズムを演奏したりオリジナルカップスをつくったりする学習に進んで取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 **知** **技**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 リズムパターンのつなげ方・重ね方の特徴について、それらのよさや面白さと関わらせて気付いている。 ② 技 様々なつなげ方・重ね方を用いてオリジナルカップスをつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	①リズムパターンのつなげ方・重ね方の面白さを生かし、全体の構成を工夫して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	①拍のり、友達と気持ちを合わせながらカップスの学習に進んで取り組もうとしている。 ②カップでつくるリズムやリズムパターンのつなげ方・重ね方に興味・関心をもち、友達とオリジナルカップスをつくる活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組もうとしている。

5 研究の視点

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

○思いをもたせるための手立てと思いを意図につなげるための手立て

9年間を通じて音楽づくりの学習が深まっていくようにするため、「どのような手立てで思いや意図をもたせるか」という視点で手立てを講じた。どのような学習段階であっても同じ視点で手立てを講じることによって、思いや意図をもって音楽をつくるという、音楽づくりの目的に向かった学習を展開することができるだろう。

音楽づくりの経験が豊かとは言えない本学級の児童が、「こんな音楽をつくりたい」という思いをもつことができるようにするために、①段階的な常時活動の設定、②言語活動の充実による知識・技能の確実な習得が必要であると考えた。また、「こんな音楽をつくりたい」という思いを、共通事項と結び付けて様々なつなげ方・重ね方に生かすことができるようにする。思いを意図につなげるために、①共有ボードの活用、②学び合いの場の設定が必要であると考えた。これらの手立ては音楽的な見方・考え方も深い関りがあるため、詳しくは視点2に記述する。

○音楽を視覚化する

楽譜をつくりながら活動することで、自分たちがつくったオリジナルカップスをすぐに演奏できるようになるだけでなく、音楽の構成を捉えることができる。また、自分たちがどこをどのように変化させたかも捉えやすいだろう。全体の構成が視覚化された楽譜を用いることで、友達のグループの演奏を聴く際にも、つなげ方・重ね方の工夫について思いや意図を伝え合うことができるだろう。そのよさを児童に伝えながら楽譜を活用させていくが、活動の重点を音楽づくりの活動におくために、記号や文字などを用いて簡単に記録させるようにしたい。

【視点2】音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

思いをもたせる

○常時活動を段階的に設定する

音楽づくりの経験が少なく、苦手意識をもっている児童がいる実態から、音楽づくりについての様々な発想を得たり、知識や技能を少しずつ習得したりできるように、本題材の学習までにカップスの常時活動を細かく設定して経験を積み重ねていく。内容としては、

- ①基本のリズムパターンの習得
- ②速度を変化する

③友達と合わせる

④つなげ方・重ね方（仕組み）を試す

⑤オリジナルのリズムパターンをつくる

である。①では教師が作成した基本のリズムパターンの動画を見たり、教師や友達に教えてもらったりしながら、時間をかけて少しずつ基本パターンを習得できるようにしていく。その際、できるようになった児童ができていない友達に教えたり、友達と一緒に合わせて活動したりしている児童を価値付けて全体に共有していくことで、友達と関わりながら楽しく学習できるようにしていきたい。②～⑤に関しては、こちらから学習を全て提示していくのではなく、「もっと速くやってみよう」「クラス全員で合わせてみたい」など、児童の「やってみよう」という思いを生かしながら学習を展開していきたい。

○言語活動の充実

常時活動で様々な発想を得た児童が、「試して楽しかった」だけで終わらせず、学んだことをオリジナルカップスづくりに生かせるようにしたい。そこで、だんだん重ねる重ね方を試した後に、「さっきの重ね方と違いがあった？」「どう感じた？」など問いかけながら、「だんだん重ねると盛り上がっていいな」など、その働きまで感じ取れるように児童とやり取りをしていく。また、なかなか意見が出ない場合は「先生は、少しずつ減っていくと寂しくなる感じがしたけど、それも素敵に感じたよ。みんなはどうだった？」など教師が価値付けた後に児童に問い返したりしながら、児童が「この重ね方を使ってみよう」と思いをもたせられるように言語活動の時間も大切にしていく。さらに、各自がオリジナルパターンをつくる活動の際も、つくったリズムパターンをみんなで試した後に、「試してみてどうだったか」問いかけながら、「簡単なパターンのほうが覚えやすく、いろいろな重ね方を試すことができる」「少し難しいけど細かいリズムが入るとかっこいい」など、リズムパターンをつくる楽しさだけでなく、そのリズムパターンのよさまで感じ取れるようにしたい。そのために、児童のつぶやきを注意深く聴いて価値付け共有していく。

思いを意図につなげる

○共有ボード（つなげ方・重ね方の掲示物）の活用

常時活動で児童が経験したつなげ方・重ね方の掲示物を貼った共有ボードを作成する。そこには、「『だんだん重ねる』は音が大きくなって盛り上がる」などつなげ方・重ね方を試した時にどう感じたか、児童に聞いたその働きを書き込んでおく。そして、オリジナルカップスづくりの際に、どんなつなげ方・重ね方をしようか考えるためのアイデアとして適宜活用するように促して、自分たちの思いに合ったオリジナルカップスをつくる参考にさせたい。

○学び合いの場づくり

児童が他のグループの演奏から気付きを得て、自分のグループに生かしていけるようにペアグループでの中間発表や、代表グループの演奏を聴く機会をつくる。その際、第1時では、つなげ方・重ね方を工夫しているグループ、第2時では、始めと中で変化を加えながらつなげ方・重ね方を工夫しているグループ、第3時では、全体のまとまりを意識しているグループと、本時の授業のねらいに即しているグループや、次時の見通しとなるようなグループを取り上げて、そのよさを児童と共に価値付けていく。そうすることで、児童が発想を得たり、つなげ方・重ね方の働きを感じ取ったり、見通しをもったりしながら活動できるようにしていきたい。また、各グループを見回す際に、それぞれの演奏の工夫やよさについて教師が価値付けることで、自分たちの演奏のよさに気付かせていき、思いや意図を明確にさせていきたい。

【視点3】評価の在り方

本時では、「リズムパターンのつなげ方・重ね方を工夫しながら変化のあるオリジナルカップスをつくる」ことをねらいとしている。そこで、評価基準として「新しいリズムパターンやつなげ方・重ね方について考え試したり話したりしながらオリジナルカップスをつくっている姿」をB基準として設定する。

○児童の様子を観察して見取る

全体を観察しておおまかにBのグループを確認する。その後、あまり話していない・試していないグループのところいき、困り感に合わせた支援を行う。また、話が多いグループには「とりあえずやってみよう」と声をかけたり、同じことを試し続けているグループには「やってみてどうだったか」と問いかけたり、新しいつなげ方・重ね方を提示したりするなど必要に応じた支援を積極的に行っていく。Bのグループは、「どうして最初は一人ずつ重ねたの？」などつなげ方・重ね方について問いかけたり価値付けたりしながら、自分たちの思いや意図を明確にさせていき、全体にも共有していく。



○振り返りのワークシートから見取る

授業の最後に、今日の学習の振り返りをワークシートに書かせる。その際、一人一人の思考が分かるように、「つなげ方・重ね方でどんな工夫をしたか」と「試してよかった点や課題」に視点を絞って記述させる。ここでは、観察では見取れなかった児童の思考を評価し、ワークシートの記述や観察での見取りをもとに、次時の学習では、上手くできているグループのアイデアや思い・意図を紹介したり、課題があったグループを取り上げて全体で改善点を話し合ったりして指導と評価の一体化を図りたい。

【コロナ対応として】

- ・音楽室に入室・退出の際は、手洗い・消毒を行う

6 題材の指導計画及び評価計画（4時間扱い）（本時2/4）

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素、 （音符、休符、記号や用語）〕	◎教師の働きかけ	評価規準 （評価方法）		
				知 技	思	態
◎カップスの基本パターンを覚えて、拍に合わせて友達と楽しく演奏する						
第一次	常時活動 （10分×6）	<p>①カップスの基本パターンを覚える。 ・カップスの映像資料①を視聴する。 ・AとBの2つのリズムパターンを覚える。</p> <p>②拍に合わせて楽しく演奏する。 ・曲に合わせて演奏する。 ・円になって友達と交換しながら演奏する。</p> <p>③様々なつなげ方・重ね方を試したりオリジナルのリズムパターンをつくらせたりする。 ・様々なつなげ方・重ね方を試す。 例) だんだん重ねる・だんだん減らす・コール&レスポンス等 ・オリジナルのリズムパターンをつくる。 ☆〔拍・リズム・音色・音楽の縦と横の関係〕</p>	<p>○まずはカップを見せずに音源のみを聴かせて、音色やリズムへの意識を高める。</p> <p>○基本パターンを習得できるように映像資料②をギガタブに入れておき、児童が確認できるようにする。</p> <p>○友達と関わりながら活動している児童を価値付け、全体に広めていく。</p> <p>○曲や友達とリズムがぴったりと合っていることを価値付け、自分たちはどう感じたか問いかけることで揃うことのよさに気付かせる。</p> <p>○曲の途中で音をだんだん小さくしていくことで、曲がなくてもみんなで合わせる心地よさを感じられるようにする。</p> <p>○グループや円で活動することで、友達と一緒に活動する楽しさを感じられるようにする。</p> <p>○児童の「○○してみたい」という考えを試すなど、遊びながら音楽づくりの発想を得られるようにする。</p> <p>○様々なつなげ方・重ね方を試してみてどう感じたかを聞き、共有ボードに整理してから再び試させることで、よさや働きについて実感しながら理解できるようにしていく。</p> <p>○それぞれが作ったリズムパターンを試しながら、アイデアを得たり一緒に演奏する楽しさを感じたりさせる。</p>	 ①知 （記述・発言）	 ①（観察・記述・発言）	

◎リズムパターンのつなげ方・重ね方を工夫して、まとまりのあるオリジナルカップスをつくる。					
第二次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○基本パターンを使って、グループでつなげ方・重ね方を工夫しながら、オリジナルカップスをつくる。 ・映像資料③を視聴する。 ・オリジナルカップスづくりのルールを知る。 ☆[拍・リズム・音楽の縦と横の関係] 	<ul style="list-style-type: none"> ○映像資料③を視聴させ、オリジナルカップスづくりの見通しをもって活動できるようにする。 ○ルールを示し、児童が安心して活動できるように声かけする。 ルール ・1分以内 ・基本パターン(A・B)を使ってつくる ・始め・中・終わりの構成でつくる ○共有ボード(つなげ方・重ね方の掲示物)を使って工夫しやすいようにする。 		②(観察・記述・聴取)
	第2時(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○つなげ方・重ね方を工夫しながら変化のあるオリジナルカップスをつくる。 ・映像資料③を視聴する。 ・本時のめあてを知り、オリジナルカップスをつくる。 ・他のグループの演奏を聴く。 ☆[拍・リズム・音色・変化・音楽の縦と横の関係] 	<ul style="list-style-type: none"> ○オリジナルのリズムパターンをつくってもよいことを伝える。ただし、パターン数は制限する。 ○困っているグループやアイデアが浮かばないグループには、共有ボードを活用するように声をかける。 ○始めと中で変化をつけながらつなげ方・重ね方を工夫しているグループを価値付けて紹介する。 		①(記述・発言・聴取)
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○全体のまとまり(始め方・終わり方)を意識しながらオリジナルカップスを仕上げる。 ・課題と改善点を話し合う。 ・自分たちの演奏を録画して振り返る。 ・他のグループの演奏を聴く。 ☆[拍・リズム・音色・変化・音楽の縦と横の関係] 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちのグループの課題や解決方法を話し合い、全体で共有することで学習の見通しをもつ。 ○自分たちの演奏を録画したものを視聴させることで、演奏のよさや課題を見つけられるようにする。その際、パフォーマンスではなく音やつなげ方・重ね方、全体のまとまりに注目するように声かけする。 ○全体のまとまりを意識しているグループを価値付けて紹介する。 		
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会を行い、友達や自分たちのグループの演奏のよさや面白さを見つける。 ・リズムパターンのつなげ方・重ね方が生み出すよさや面白さを感じ取る。 ・友達のグループの演奏のよさや面白さを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの演奏の「押しポイント」を発表させ、聴き手に意識させてから聴かせる。 ○友達のグループのよかったところを発表させ、お互いを認め合いながら学習できるようにする。 ○題材で自分が学んだことや、自分たちの演奏のよさや面白さなど、視点を絞って振り返らせ、適宜全体に共有していく。 	②(技(演奏聴取))	

※今回、扱う映像資料と目的について以下に説明する。

映像資料	目的
①ミュージカル映画「ピッチパーフェクト」の劇中歌「When I'm Gone」(YouTube)	導入でカップスについて知り、「やってみたい」を引き出す。
②カップスの基本パターンA・B説明・実演動画(教師作成)	カップスの基本パターンA・Bを習得する。
③オリジナルカップス動画 シンプル版・完成版(教師作成)	オリジナルカップスづくりの見通しをもつ・アイデアを得る。

7 本時の指導（2／4）

（1）本時の目標

リズムパターンのつなげ方・重ね方を工夫しながら変化のあるオリジナルカップスをつくる。

（2）本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の働きかけ・目指す児童（生徒）の姿 ◇評価規準（評価方法）
1 常時活動をする。 ・円でカップス	○音をよく聴き友達とぴったり合うように声をかける。 ○強弱を変化させたり、つなげ方・重ね方を試させたりしながら活動させる。
2 前時の学習を振り返る。	○前時のよかったところや課題、解決方法を共有し、見直しをもって活動できるようにする。
3 本時の目標を知る。	つなげ方・重ね方を工夫して、「ここがすごい・すてき」ときく人に思わせるオリジナルカップスをつくろう。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ルール</p> <p>①1分以内</p> <p>②基本パターン（A・B）を使ってつくる。</p> <p>③始め・中・終わりの構成でつくる。</p> <p>④オリジナルパターンを使ってもよい。（パターン数は2つまでに制限する。）</p> </div>	○映像資料③（教師が作成したオリジナルカップス動画）を視聴させ、前時の動画と変化していた点について確認する。 ・ブレイクがあったね。 ・新しいリズムパターンが出てきたよ。 ○新たな条件（④）を提示し、つなげ方・重ね方を意識しながら活動するように声をかける。
4 リズムパターンを考えたり、つなげ方・重ね方を試したりしながらオリジナルカップスをつくる。 ・試したり、楽譜にメモしたりしながらつくる。	○つなげ方・重ね方のアイデアが浮かばないグループには、共有ボードを活用し、オリジナルカップスづくりに生かせるように声をかける。 ○新たなリズムパターンを覚えるのが難しい児童がいるグループには、簡単なリズムパターンを提示する。 ○つなげ方・重ね方を工夫して変化のあるリズムアンサンブルをつくっているグループを価値付けて、全体に紹介する。
5 代表グループの演奏を聴く。 ・友達のグループのよいところを見つけて伝える。	○つなげ方・重ね方に着目するよう伝えてから聴かせて、感想を発表させる。 ・ブレイクで音がなくなった後に、新しいリズムパターンをみんなで演奏していた部分が目立っていてかっこよかったよ。
6 再びオリジナルカップスをつくる。	○友達のグループの演奏を参考にしながらつくってもよいことを伝える。 ・つなげるのではなく、まだ使っていないコール&レスポンスを入れたら、前と違う感じが出て面白そうだね。
7 本時の学習を振り返る。	○「つなげ方・重ね方でどんな工夫をしたか」「試してみてよかった点や課題」について記述させ、次時の学習に生かす。
☆〔拍・リズム・音色・変化・音楽の縦と横の関係〕	◇リズムパターンのつなげ方・重ね方の面白さを生かし、全体の構成を工夫して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもって (思考・判断・表現) (記述・発言・聴取)